

第2回柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会（第16回柏崎市総合計画審議会）議事概要

- 1 日時 平成29年2月15日（水） 午後3時30分から午後4時40分まで
- 2 場所 柏崎市役所4階 大会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 栗林副会長、北嶋委員、小出委員、藤原委員、若山委員、阪田委員、小林委員、西川委員、霜田委員、田中委員、西巻委員、阿部委員、関矢委員、田村委員、石坂委員（欠席：梅澤会長、会田委員、長委員、高木委員、根本委員）
 - (2) 庁内 市長、副市長、教育長、（総合企画部長）、財務部長、危機管理監、市民生活部長、産業振興部長、会計管理者、教育部長、議会事務局長、ガス水道局長、消防総務課長（消防長代理）（欠席：福祉保健部長、都市整備部長、消防長）
 - (3) 事務局 企画政策課長、企画政策課長代理（振興係長）、企画係長、政策係長、企画係員2名、振興係員
- 4 概要
市議会にて第五次総合計画が議決された際に付された意見への対応について報告した。また、総合計画と整合性を図るため、柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定案について協議した。

発言者

発言概要

（柏崎市第五次総合計画前期基本計画の修正について）

- 石坂委員： 同和教育について、分科会で同様の発言をしたが、狭義な意味ではなく、あらゆる差別が含まれるとの説明を受け、納得した。修正すると、狭義なものに捉えられるのではないか。
- 市民生活部長： 議会では、同和教育が必要ないのではないかと意見が出たが、必要である。より幅広い表現とするために修正したものである。
- 高木委員： 同和教育の用語解説が記載されるのか。
- 企画政策課長： 記載される。

（柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理報告について）

- 田中委員： 重点プロジェクトにある（仮称）柏崎市U・Iターンセンターと駅前にある柏崎市U・Iターン情報プラザとの関係性を教えてほしい。
- 企画政策課長： U・Iターン情報プラザは、（仮称）柏崎市U・Iターンセンターの前身施設である。センターは、違う場所に整備することも含めて検討を進めたい。
- 霜田委員： 時点修正ということであれば、現状値を、H22年国勢調査ではなくH27国勢調査に基づいた数値に修正しても良いではないか。
- 企画政策課長： H27国勢調査の詳しい数値は、まだ公表されておらず不明である。また、今後公表されたとしても、その時点で現状値の変更は考えていない。
- 関矢委員： 重点プロジェクトの説明文のうち、景気動向の記述が削除されている。理解できる記述と思うが、景気動向が変わったと判断して削除するのか。
- 企画政策課長： 状況が全て変わったということではない。世の中の情勢が変わっていくことで、その時々状況と記述が合わなくなることが考えられるため削除したい。
- 関矢委員： 記述のうち「景気の低迷から抜け切れていない」の部分は、皆の共通認識である。景気の低迷から抜け出したとの判断による削除であれば、認識が違う。
- 副市長： 記述の状況は、現在も変わっていないと認識している。この部分は「若者雇用促進プロジェクト」に特化した普遍的な記述にしたいため、変化する部分を省くための修正である。
- 阿部委員： 基本的な方針として若者をターゲットにしているが、目標指標には、女性に関する数値を掲げている。ほかにも雇用や景気に関する優先度の高い数値もあると思う。今後、丁寧な検討が必要と思う。
- 市長： 計画の趣旨に、現状の景気動向、少子高齢化の流れ及び有効求人倍率等の記載があるとおり、厳しい経済情勢であると認識していることを御理解願いたい。

- 田村委員： 重点プロジェクト4では「シティセールスのシンボルマークを旗印に」と記載があることから、このページにシンボルマークを掲載していただきたい。
- 市長： 御指摘のとおり、シンボルマークを掲載する。
- 小林委員： 第3節の目標指標に「柏崎リーダー塾卒塾生の地域活動への参画者数」とあるが、地域活動の定義が曖昧である。市の審議会等委員への登用者数に変更した方が良いのではないか。
- 企画政策課長： 地域活動の定義は、地域での活動への参画のほか、市の審議会委員等も含まれていることを御理解願いたい。なお、表現が分かりにくいのであれば、若干の修正を検討したい。
- 市長： 記者会見の場で、来年度に力を入れる事業の一つに柏崎リーダー塾を位置づけていると発表した。また、庁内では、卒塾生を各種委員に登用するよう指示している。
- 栗林副会長： 卒塾生は、元気なまちづくり事業に応募し、活動している。今後、こうした活動が起業につながっていく場合、目標数値に加えても良いのではないか。
- 企画政策課長： 大きな意味では数値に含むと思われる。可能な限り数値に加えていきたい。
- 若山委員： 資料編について説明はあるか。
- 企画政策課長代理： 資料編では、策定要領及び委員名簿は修正せず、用語解説は修正を行う。
- 若山委員： 用語解説では、カタカナ用語のものは解説していただきたい。
- 企画政策課長代理： 御指摘のとおりカタカナ用語の解説を充実していく。
- 西巻委員： 第3節の主な事業にある「デュアルシステム事業」とは、どのような事業か。
- 産業振興部長： 具体的には、柏崎工業高校2年生が3日間のインターンシップ後、さらに春休みに10日間インターンシップするものである。インターンシップの延長版と捉えていただきたい。
- 田村委員： 用語解説で、Iターンが「ゆ行」に掲載している。
- 企画政策課長： U・Iターンが誤ってIターンと表記されたものであり、訂正する。
- 霜田委員： 重点プロジェクト1では「若者のふるさと回帰を推進する」とある。しかし、Iターンにも言及しており、回帰を移住や転入という表現に修正してはどうか。
- 企画政策課長代理： 御指摘のとおり修正させていただく。
- 市長： 現在、U・Iターンは若者のみならず、40代50代の働き盛り世代でも盛んとの話を聞いた。若者に限らず、U・Iターンを促進するような表現に修正させていただく。
- 内山委員： シニア世代では、退職後の就農するU・Iターン者もいる。定年退職後にU・Iターンする方も戦略に入れた方が良いと思う。
- 市長： 御指摘は理解するが、「若者雇用促進プロジェクト」の項目であるため、記述することは難しい。ただし、世代を超えてU・Iターンを促進することは、加えさせていただきたい。
- 藤原委員： 以前にも、若者だけでなく高齢者にも目を向けるべきとの話を出した。しかし、時間的な制約などから、若者に限定することで話が進んだ経緯がある。
- 栗林副会長： テレビ番組「人生の楽園」では、元気のあるシニア世代がIターンし、地域貢献している様子が伺える。戦略とは別としても、シニア世代のU・Iターンも大切である。
- 市長： 戦略の重点プロジェクトとは別に、全体の中では、若者に拘らず全世代のU・Iターンを促進する施策に取り組んでいきたい。
- 石坂委員： この後の進捗管理は、どのようなスケジュールなのか。
- 小出委員： 掲載している「主な事業」の8割以上について、内容が分からない。これでは進行管理ができない。このため、各事業がどのようなものか簡潔な説明がほしい。
- 企画政策課長： 今後の進行管理で、事業内容について説明を行っていきたい。
- 全委員： 了承。
- 企画政策課長： 今後、総合戦略は、市役所内庁議に諮った後、市議会総務常任委員協議会に報告させていただく。
- 審議会委員の任期は、今年度末で満了である。来年度以降の審議会の任務は、総合計画及び総合戦略の進行管理である。新たな審議会委員を御願いする方もいらっしゃると思われるが、御協力願いたい。